

長期滞在研修レポート

農研機構農業機械研究部門知能化農機研究領域施設園芸生産システムグループ
(農村工学研究部門資源利用研究領域地域資源利用・管理グループにて研修)

檜野 雅和¹⁾

1. はじめに

農研機構の試験採用研究職員は、採用から本配属までの期間、本人の本配属先とは別の農研機構内の研究センター・部門において長期滞在研修を行うことになっている。今年4月に農研機構に採用された私は、10月の農業機械研究部門への本配属までの期間、農村工学部門の研究推進部で1か月間、資源利用研究領域地域資源利用・管理グループで5か月間の研修を行ったのでここにその内容を報告する。

2. 研修体験記

I

研究推進部では、第5期中長期計画の初年度ということでは忙しいなか、多くの会議に参加させてもらいました。日本の農業の現状やあるべき姿、政策と研究の関わり合いについて学ぶことができ、行政との関わりが強い農村工学部門ならではの経験だったとおもいます。

地域資源利用・管理グループ（実質的にお世話になったのは、地域資源利用・管理グループに所属する旧・農業施設ユニットの皆さんです。）では、農業施設・温室の環境計測と制御手法の習得を主題として5か月間の研修を行いました。日本の農業施設研究を牽引してきた由緒ある研究室で、温度、湿度、日射等の環境データの計測と解析、温室の構造、環境制御の基礎を伝授してもらえるという贅沢な時間を過ごしました。



写真1 日射計性能比較試験の様子

II

農研機構に入構して一番驚いたことは自由に使える時間がとても多いことです（研究内容にもよると思いますが）。この自由時間を利用して当初の研修計画にはなかった環境計測用温室内移動ロボットの製作を行いました。温室の大規模化の流れの中で重要になってくるのは温室内の環境ムラの把握ですが、そのためには温室内にたくさんのセンサーを設置する必要があります。計測点を増やせば増やすほど増えていくセンサーの数に歯止めをかけるべく、一つの移動体にセンサー群を集約しようという試みです。ロボットの移動機構等、詳細は省きますが、その有用性についてご好評頂いたのが意外でした。学生時代は数値シミュレーションによる研究が主だったため、モノを作って動かす流れを



写真2 環境計測用温室内移動ロボット

経験できたことは大変有意義でした。研修生の身にもかかわらず、自由にアイデアを形にできる環境を与えてくれた農業施設研究棟の皆様に感謝します。

3. おわりに

今後の研究において重要な視点を得ることができた半年間の研修でした。最後になりますが、私の研修を受け入れてくださった農村工学研究部門の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真3 著者近影

1) 略歴（榎野 雅和）

出身：広島県福山市・山口県下関市

2019年 九州大学農学部 卒業

2021年3月 九州大学大学院生物資源環境科学府 修士課程 修了

4月 農研機構採用

現在は農業機械研究部門知能化農機研究領域施設園芸生産システムグループに所属